学生アルバイトをめぐって

川村雅則（北海学園・労働経済論担当）

【目次】

「はじめに」の前に 1
０．はじめに 2
１．調査の概要 3
２．調査の結果 3
３．まとめに代えて 8
資料Ⅰ　自由回答 9
資料Ⅱ　バイト経験や、家族・友人の労働現場のあれこれ（「課題用紙」記載）...14

「はじめに」の前に

① 若者の「就労意識の低さ」とやらを嘆く声があるが、私の身のまわりの学生バイトに限っていうと、そんなことはない。総じて、彼・彼女らは、さほどに高い時給をもらっているわけではなくとも、一生懸命、真面目に働いていると私は思う（「時間帯責任者」という責任ある立場であっても、時給にさほどの上乗せがあるわけでは必ずしもない）。ときには、いわゆるサービス残業など違法な行為を「強いられて」いても、である。

② 「今日はミーティングだけで時給がでない（なぜ？！）からバイト行きたくないなぁ」、「深夜手当は時給に 50 円が上乗せされているだけ（どういう計算だ？！）」、「レジのお金があわなくて、連帯責任（！）」。こんな話を学生から聞くのはさほどに珍しくない。

③ もちろん私も、彼・彼女らに対して、「法律に違反した行為なんだし、店長さんとちゃんと話し合ったほうがいいよ」という極々控えめなアドバイスをする。法律の説明もする。だが、「まぁそうですけど・・・」と言って、けなげにも自らの努力（！）で対応しようとするのがほとんどだ。「一緒に働くバイト仲間やパートさんなど、職場の人間関係は良いのだから、あえてことを荒立てることもない」「なんだかんだいって、店長さんも大変そうだし」、そんな心理が、程度の差はあれ、働くのかもしれない。

④ それは、やはり、長くその場で働くことを前提としていない、つまり、「いずれは辞めるわけだから」という、まさに学生バイトの心理・対応と言えるのだろう。

⑤ しかし、学生バイトも、いずれは大学を卒業して、正社員という身分で働き始めることになる。そのときは、もっと、しんどくて理不尽な事態に遭遇する機会も増えるだろう。仕事は楽しい面ばかりではない。しんどい面も少なくない。いや、この不況下で、職場社会が荒廃しているという、いささかショッキングな指摘さえある（この間の労働相談件数の急増をみよ！）。そのときにどうするのか？

⑥ あるいは、不吉な予言のようだが、少なからぬものは、このままアルバイト（フリーター）という身分での就業を余儀なくされるだろう（この間の若者の非正規雇用比率の急増をみよ！）。いまの処遇のままで果たして「食っていける」のか？

⑦ 「「はじめに」の前に」の割には、いささか長くなってしまった。「お客様のことを考え、サービスに徹する」のも「バイト仲間や社員さん・店長とのチームプレーを大事にする」のも大変素晴らしいことであり、ぜひ究めて欲しい。

だがあわせて、自分の働き方（労働条件）や処遇についてもいくばくかの関心をやはり持って欲しい。そして、「なんかオカシイな？」と思うことがあったら、きちんと（場合によってはちょっとした異議申し立てのニュアンスも含めて）、発言をしてもらいたいと思う。「仕事も、仲間も、そして自分も」大事にしてもらいたい。

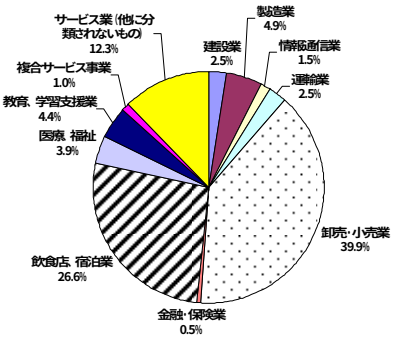
０．はじめに

① 学生でアルバイトの経験が全くないというものは、そう多くはないだろう。中には、学業とアルバイトのウェイトが逆転しているツワモノさえ、みられる。言い換えれば、彼・彼女らは、卒業後に正社員として働き始める前に、様々な仕事経験をすでに積んでいるということになる。

② また、学生バイトという労働力が欠かせない産業、言い換えれば、学生バイトなくしては成り立たないという産業も少なくない。例えば、「平成 16 年 労働力調査（詳細）」によれば[1]、パート・アルバイト 1084 万人のうち、約 5 人に 1 人（205 万人）を占めるのが「15～24 歳」層である。またそのうち、在学中の者は約 100 万人（99 万人）に及ぶ。

③ そして、この若い（「15～24 歳」）パート・アルバイトが多く働く産業は、一つは「卸売・小売」産業（39.5%）で、もう一つは「飲食店、宿泊業」（26.3%）である。「在学中」の者に限定すると、それぞれの割合は、40.4%、35.4%にまで高まる[2]。

図　若者が多く働く「卸売・小売業」「飲食店・宿泊業」



④ ところで、上で、学生の多くは学生時代にバイトを経験して卒業後に正規雇用で働き始める、と述べた。だが、今日、学校から仕事への移行の形態は多様化・複雑化している。正規雇用での就職が困難な中で、アルバイトという雇用形態で就業を続ける若者が少なくないことも事実である。

⑤ こうした状況を念頭に置いて検討されるべきは、アルバイト経験の積極的な「活用」である。つまり、ただ働いてお金を稼ぐというだけに、アルバイト経験をとどめておくのではなく、次のようなことを期待したい[3]。

(ア)例えば、自分の労働条件や処遇を通じて、働く分野のルールに関心

1 ①非農林業就業者は 6052 万人で、そのうち雇用者は 5334 万人。②役員 395 万人を除く雇用者 4940 万人の内訳は、正規の職員・従業員 3393 万人、パート・アルバイト 1084 万人、派遣社員 85 万人、契約社員・嘱託 254 万人、その他 124 万人。

2 なお、これら二つの産業では、パート・アルバイトの占める比率それ自体も高い。正規雇用を 1.0 とした場合の指数は、全産業では 0.37 であるのに対して、「卸売・小売」では 0.68、さらに「飲食店、宿泊業」では、正規雇用をはるかに上回る 1.70 に達している。

3 もちろん、実際には、彼・彼女らは、調査結果にもみられるとおり、給料だけでなく、アルバイトで多くの「成果」を得ている。

を持つことがまず可能ではないだろうか。

(イ)また、社会が形成される上で自分（の仕事）が果たしている役割や、自分の働く産業が直面している構造的な問題などに関心を向けることはできないだろうか。

(ウ)さらには、自分の労働条件・処遇をめぐって疑問を感じたり不幸にも理不尽なめに遭った場合には、使用者との話し合い・交渉を通じてその解決（「納得」も含めて）を図ることが可能であること、そうした作業を経てこそ健全な労使関係が築かれてゆくこと、そんな経験をさせられないだろうか。

(エ)もちろん、とりわけ（ウ）に関しては、働く側の発言権があまりにも小さい今日のわが国の現状をかんがみるならば、あるいは、労働条件・処遇に不満がある際には「離職」という手段が採用されやすい[4]若者の現状をかんがみるならば、現状では、あまりに現実離れした夢物語と一笑に付されること間違いなしだろう。

(オ)だが、長期にわたってアルバイトという雇用形態で働かざるを得ない若者が増大している今日、そういう試みは、必要ではないかとやはり思われるのである[5]。

⑥ いま、学生は、アルバイトを通じて、社交性・社会人のマナーを身につけたり、気の合うバイト仲間や優れた上司・使用者と出会うなど、貴重な経験を積んでいる。だがその一方で、働くルールが軽視されたりアルバイトをぞんざいに扱うなどの理不尽に遭遇するケースも珍しくない。

⑦ 小文は、上に記したようなねらいを念頭におきながら行った、学生バイトの実態調査結果をまとめたものである。今回の調査は試験的に行ったものゆえ、規模は極々小さく、内容もまた不十分なものに終わった。が、小文を題材（ネタ）に、学生バイトや働くことに関してあれこれ議論がなされることを提供する。

１．調査の概要

① 今年（2006 年）の 6 月に、「労働経済論」履修生やゼミ生を対象に簡単な質問紙調査を実施した[6]。授業・ゼミの際に調査票を配布し、その場で記述してもらい、回収した。

② この調査では、十分な記述の時間を確保できなかった。そこで、授業の毎回の課題で提出してもらっている課題用紙の内容の一部も掲載し（【資料Ⅱ】参照）、学生バイトの実情や学生の考えていることを理解していただけるようつとめた。但し文体等は変えている。

２．調査の結果

① 49 人を対象に調査を行ったところ、現在アルバイトを「継続的にしている」者が 36 人（73.5%）、「全くしていない」者が 9 人（18.4%）で、残りは「時々している」者が 3 人、「かつて、してい

4 もちろんそのこと自体は責められるものではない（理不尽なめに遭った場合には、とくに）。

5 札幌学院大学のある法学部ゼミでは、学生自身によるアルバイト法律相談という興味深い取組みも行われている。http://houritusgu.exblog.jp/

6 関西大学・森岡孝二教授のゼミ生によるアルバイト調査の調査票も参考にさせていただいた。http://www.zephyr.dti.ne.jp/~kmorioka/

た」者が 1 人だった。

② 以下では、バイトの状況について記述のあった「継続的にしている」者 36 人と、「時々している」者 1 人、「かつて、していた」者 1 人の計 38 人の回答を分析してゆく。

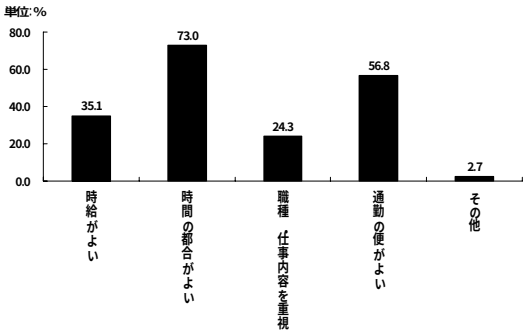
【属性】

① 38 人の所属は、1 部が 14 人、2 部が 24 人で、学年は 3 年生が 65.8%、性別は男性が 8 割弱（76.3%）、通学形態は通学が 9 割を超えている（92.1%）。あらかじめ述べておくと、回答者に 2 部生が多いこともあり、アルバイト時間は比較的長い傾向にある。

【仕事の選択等】

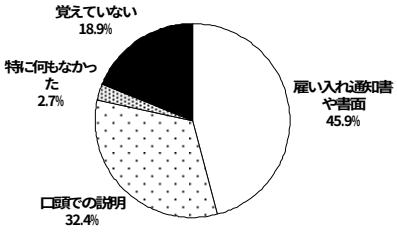
① 38 人のうち、3 人がかけもちでバイトをしている。現在の仕事は、アルバイト情報誌で見つけたものが多い（68.4%）。また、いまの仕事を選んだ主たる理由は「時間の都合がよい」ことで 73.0%を占めている。それに続くのは「通勤の便がよい」（56.8%）で、「時給がよい」は 35.1%にとどまる。

図　バイト選びは、時間の都合や通勤の便のよいことが重要



② 雇われ時に労働条件・処遇がどう明示されたかは、「雇い入れ通知書や書面」が最も多い（45.9%）が、「口頭での説明」も 3 割、そして、「覚えていない」も 2 割を占める。「書面での確認を要求するという行為は、相手を疑っているようでどうも・・・」という心理があるかもしれないが、後述のようなトラブルを避け、労使双方が気分よく働くためにも、書面での確認作業は必要不可欠ではないか（もちろん、法律上も）。

図　オレの契約内容ってどんなだったかな？―雇い入れ時の契約内容の確認が不十分



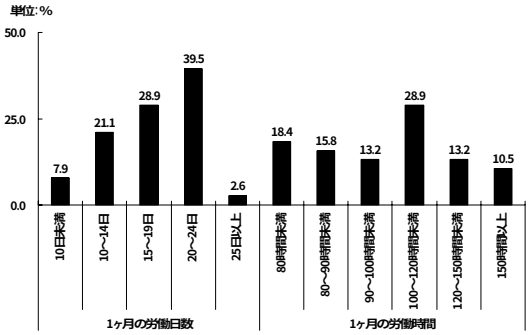
【働き方等】

① 勤続年数は、比較的長い者が多く、全体の 7 割（73.7%）が 1 年以上働いている。

② 1 ヶ月の労働日数は多い。20 日以上働く者は 4 割を占め、平均値は 17.4 日である。また、1 ヶ月の労働時間も長く、平均値は 101.1 時間に及ぶ。120 時間以上も 2 割に達している。そして、1 日の労働時間[7]は、平均で 6.4 時間である。長めの労働時間だが、「今ぐらいでよい」と考えるものがほとんど（89.5%）である。

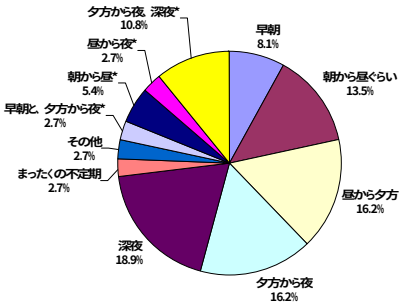
7 平日と日曜・祝祭日など、日によって労働時間が異なるケースもみられた。その場合、中間値を採用した。

図　アルバイト時間は、平均で 1 ヶ月に 17.4 日、101.1 時間



③　バイトの時間帯[8]は様々だ。早朝時間帯に働く者もいれば、夕方から夜にかけて、あるいは、深夜に働く者も少なくない（「深夜」18.9%、「夕方から夜、深夜」10.8%）。

図　キミタチ、学業はダイジョウブかい？―少なくない深夜バイト

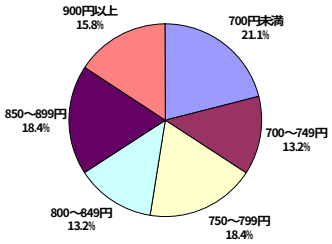


【時給など】

①　夜あるいは深夜に働く者が少なくないため（さらに、「時間帯責任者」や「店長代理」という立場のものも含まれているため）、現在の時給の平均値は 805 円と比較的高めである。だが、700 円未満（最賃額である 641 円以上、699 円以下）も、5 人に 1 人の割合である。全体の半数が 800 円以下である。

8 バイトの時間帯については、一部に複数回答があった。

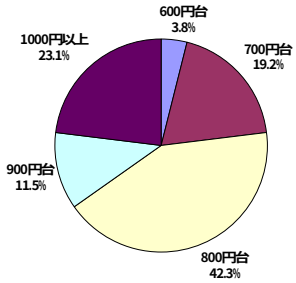
図　時給の平均値は 805 円なり



②　交通費が全額支給されている者は 3 割（28.9%）にとどまる。残りは、「一部支給」34.2%、「不支給」36.8%である。

③　現在の時給で十分かを尋ねたところ、「十分である」は 3 割にとどまった。「十分でない」という残り 7 割のものに、どの位の時給額が妥当かを尋ねたところ、平均値は約 900 円（894 円）に及んだ。1000 円以上を希望する者も 4 分の 1 を占めていた。さてそう言えば、時給（賃金）とは何を基準に決められるものなのだろうか（仕事の内容との関連は？必要生計費は？）[9]。

図　希望する希望額・平均値は 894 円なり（現状プラス約 100 円）



④　1 ヶ月の収入の平均値は 8.4 万円である。主な使い道としては、「娯楽費」

9 関連して、「「時給○○円以上」という条件で採用されたが、いつまでたってもあがらん！」という不満を聞くことがあるが、どういう基準で昇給があるのか、聞いているのだろうか？

84.2%、「飲食費」78.9%、「被服費」68.4%、「通信費」65.8%に加えて、「貯金する」が 6 割を超えて多い。「学費」に支出しているものが 3 割のほか、「通学費」にも使っているものが 44.7%を占めている。

【働きやすい点・働きづらい点】

① 現在の仕事での働きやすい点と働きづらい点の有無とその内容をそれぞれ尋ねたところ、前者は「ある」が 8 割、後者も「ある」が 6 割を占めた。では、どんな点が働きやすい（づらい）点なのだろうか。

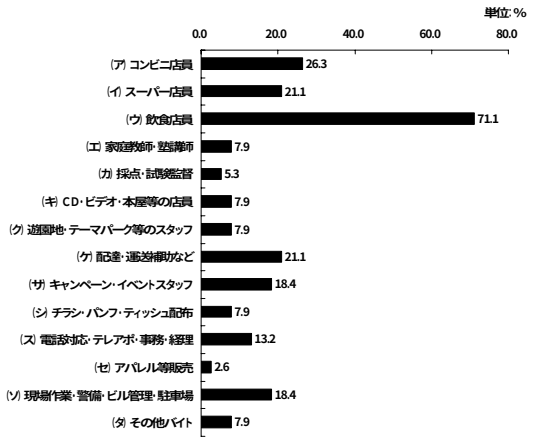
② まず働きやすい点は（後述の【資料①】も参照）、一つ目には、バイト仲間やパートのおばさん、そして社員さん・店長などとの人間関係のよいことがあげられるだろう。曰く、「パートの方はおばさんばかりだけれども、うまくいっているし、正社員や上司の人達ともうまくやっている。やはり、お金も大事だけれども、一番大切なのは働く場所（人間関係－調査者）、すなわち環境が大事なのではないかと思う」と言わせるほどである。そして二つ目には、同じ職場で長く働いていることで得られる、仕事上の裁量などである（中には、「店長代理」など管理的な業務に従事している学生もいる）。この「長く勤めることで得られるモノがある」点は、将来就職した際にも覚えておいてもらいたい点である。

③ さて、逆に働きづらい点は何だろうか（【資料②】も参照）。これも仕事の内容によって様々だろうが、例えば接客が中心である関係上、お客とのやり取りでのトラブルがある（後述のトラブル参照）。また、上では働きやすい点としてあげられていた「人間関係のよさ」に不幸にして恵まれず、逆に、人間関係の悪い職場で働くしんどさも、ちらほらあげられてはいる。だがここで注目したいのは、仕事上の責任の重さである。ときにそれは、「仕事が終わらないから」ということで、不払残業もやむなしという心理に彼・彼女らをいざなうようである。「時間帯責任者」など責任ある立場に任命されている学生ならなおのことだろう。もっとも、そうした責任の重さの割には時給が安いのではないか、という不満のくすぶりも彼・彼女らの中にみられはする。こうした働きづらさは、どう解消すればようのだろうか。我慢する？それとも、離職でしか解消し得ないのだろうか。

【バイトで学んだこと・得た成果と、経験したトラブル・不満】

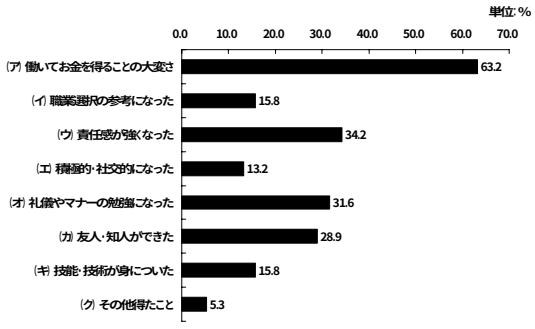
① さて、大学入学後からいままでの間に経験したアルバイトの種類をみると、圧倒的に多いのが「飲食店員」で、7 割（71.1%）が経験ありと回答している。次に多いのが「コンビニ店員」（26.3%）で、そのほかに 2 割を超えている職種は、「スーパー店員」と「配達・運送補助」の二つである（次頁）。

図　圧倒的に多い、「飲食店員」経験



② では、こうしたアルバイト経験を通じて、彼・彼女らはどんなことを学び、どんな成果を得ているだろうか。上位 2 つ以内で回答してもらったところ、やはり最も多いのは「働いてお金を得ることの大変さ」（63.2%）である。次に、「責任感が強くなった」（34.2%）、「礼儀やマナーの勉強になった」（31.6%）、「友人・知人ができた」が 3 割前後で続く。アルバイト経験は、たんにお金を得る機会・場にとどまるものにあらず、のようである。【資料③】に散らばる「責任」という言葉に目をひかれる。

図　それにつけても、勤労の尊さよ

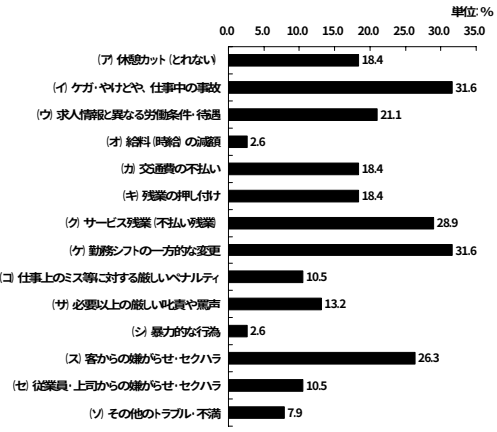


③ ところで、逆に、これまでのアルバイトでトラブルや不満は経験していないだろうか。15 の項目を設定して尋ねたところ、まず、○印のない者（そういう経験のない者）が 4 人いた。以下、この 4 人も含めて、多いトラブル・不満を順にみていこう。まず第一に、その程度は不明だが、（イ）ケガ・やけど・事故（31.6%）、（ク）勤務シフトの一方的な変更[10]（31.6%）が 3 割を占めている。その他で注目すべきは、わが国で社会的な問題になっている「サービス残業」とも、学生バイトは無縁ではないこと（28.9%）。（イ）求人情報と異なる労働条件・処遇（21.1%）、そして、仕事の内容が接客業中心ゆえ、（ス）客からの嫌がらせ・セクハラ問題も少なくない（26.3%）。例えば深夜コンビニのように、少人数で店舗を任されたり、「時間帯責任者」という立場で客からのクレームを一身に引き受けて働く学生バイトも、少なくない[11]。彼・彼女ら安全については十分な検討がなされているのだろうか（次頁と【資料④】参照）。

10 例えばこんな場面をときどき経験する。学生との会話中、彼の携帯にバイト先から連絡があり、「え、今からですか？うーん、14 時位にならないですかね」というやり取りと、そのあとの、「いやぁ、急にシフトに入れられちゃって」とバイト先に頼られていることをちょっと誇らしげに私に説明するその姿。これはほほえましくもあるが、一方で、「テストだって言ったのに・・・」と急なシフト変更に不満を言う学生の姿も。学生バイトは、ジャスト・イン・タイムな労働力として、もってこいの存在ということか。

11 以前、深夜に、飲んで酔っ払った帰り道に入ったコンビニの店員さんが女性一人だけだったので、思わず、「危なくないですか？」と尋ねたところ、「バック（バックヤード？）に男性がもう一人いますから」ということだったが、品の悪い酔っ払いだって来るだろうし、ダイジョウブなのだろうか（もちろん、安全確保の必要性は、男性店員であっても同じだが）。

図　サービス残業も早いうちに経験しちゃえ？！



３．まとめに代えて

小文は学術論文という性格をもつものではなく、学生バイトや働くことについての議論を深めてもらうための素材という性質のものなので、最後に何か提起することなどは控えておく。

ただ、一言だけ言わせて。

気の合うバイト仲間や人生の先輩たる「社員さん」・店長と出会い、楽しく働き、場合によっては責任ある仕事を任されるにもいたる、等々、学生がアルバイトを通じて、様々な経験を積んでいることをまずは肯定的に評価したい。

が、一方で、いわゆるサービス残業などわが国労働現場で問題になっている法律に反した行為を就職前から一足早くに（？）経験したり、「責任」だけ与えられるが処遇は低いままだったり。あるいは、ホンネはもう少し時給を上げて欲しいのだけれども、「まぁ言ったってあがるわけないし」という、さとりの境地。

こういう状況をどうすればよいだろうか。いや、どうする必要もないのだろうか。いずれこのバイトは辞めるわけだし、ことを荒立てることもない、だいたいそんなに嫌だったら辞めて別のバイト探せばいいんだよ、そんなカンジだろうか。

これから、それはそれで結構楽しい一方で、なかなか自分の思うようにはいかない労働社会で生きていくためにも、色々なことを考えてもらいたい。それも、仕事や仲間に「責任」ある態度だと思うのだが、どうだろうか。

資料Ⅰ　自由回答

各回答の頭についている数字は、順番を示しているだけで、同一人物を意味しているわけではない。

【資料①】働きやすい点

1). 長く働いているので、お客様や会社の人に顔を覚えてもらっており仕事がやりやすい。仕事をある程度自分の好きなように進められる。
2). だいたい希望通りにシフトを作成してもらえること。
3). 人間関係がよいことが一番にあげられます。次に、仕事の内容がとても勉強になり自分のためになることを。続いて、時間や都合をよく聞いてくれることです。
4). 扱う教材の管理（内容？－調査者）がしっかりしている。
5). シフトの柔軟性。まかないがきちんと出される。学生が少ないのでおばちゃんからかわいがられる。
6). 家から非常に近いので、割と遅い時間でも交通手段を気にすることなく働くことが可能。また、店自体の雰囲気も良く、仕事上のアドバイスやお互いの人生について相談しあったりなど、働いていて居心地がよく、やりがいが感じられるところ。
7). 良いパートナーに恵まれている。
8). アルバイトが中心になって働いているので自分達の意見を社員の人達に意見を言いやすい環境にあること。
9). 仲の良い友人が何人かいること。また、早めに行けばまかないも食べられるので学校から直接行くときは有難い。
10). 土地勘のある場所を散歩気分でできる。
11). シフト等を自分が作成するためある程度自由がきく。またセールなどの企画や店長の会議に代理で参加させてもらっているので、勉強になることが非常に多い。
12). 他のアルバイトと楽しく仕事ができること。
13). つまみ食いや手を抜くことができ、慣れてきたからあまり注意されないこと。
14). 人間関係が良いこと。
15). オープニングスタッフだったのでバイト仲間の仲が良い。店長がいないことが多いので楽。
16). 座ってできること。
17). 接客するだけだし、深夜であまり客が来ないので、雑誌などを読んでいられること。
18). 融通がきく。
19). 自分が店長代理で仕事をしており、使う側なのでやりやすい。
20). 職場の人とはうまくいっているので、仕事はやりやすい。
21). 店で一番古くオープン時から働いていたので社員よりも長く働いており、わからないことがなかった。深夜は 2 人体制で、中学からの友人と組んでいたので仕事はやりやすかった。
22). 支配人の人柄がよく、時には真面目に、時には笑ったりと楽しく仕事が出来る事。
23). 終業時刻が定刻。週休二日制。スーツ通勤（被服費の節約）。
24). 働く環境が良いこと。パートの方はおばさんばかりだけれども、うまくいっ

ているし、正社員や上司の人達ともうまくやっている。やはり、お金も大事だけれども、一番大切なのは働く場所、すなわち環境が大事なのではないかと思う。

25).融通がきくところ。長期間働いているので、色々気軽に仕事を任せられたり任せたりすることができる。

26).社員全体の人間関係が優しく働きやすい。

27).人間関係が良く、とても働きやすい環境。

28).自分の好きなこと・興味のあることなので、楽しく仕事ができる。同年代の人が多いので、働きやすい雰囲気である。

【資料②】働きづらい点

1). 接客での人間関係。ホテルという多くの人が働いている場なので、会社の人が来た時には役職の順に食事を提供しなければいけない点など。②年中無休なのがつらい。1 月 1 日に休日願いを出したいけれども気を使って出せない。

2). 強制はされないが、時間内に仕事が終わらなければ、それが自分の力量であると判断され、退勤処理をした後にも、仕事が終わるまで働かざるを得ない状況になってしまう。また、現在は改善されたが、少し前までは、30 分前から働き、退勤処理をしてからも 30 分位働くのが当たり前になっていたのが不満だった。

3). 責任者として働いているときはお店の全てを任されるので、時間内に作業が終わらなければもちろん時間外でも働きます。責任者として時間外労働の時間をつけると、労働時間の使い過ぎで費用管理ができないと思われるので、時間はつけることができません。また、この仕事でこの時給は安いと思います。この給料の点のみが、働きづらい点です。

4). 予算上、少ない人数で店をまわさなければならないので、一人一人にかかるプレッシャーが大きい。仕事が出来ない人へのねちねちしたいじめ（排他的）。パートのおばちゃんで 1 日に 10 時間位働いている人がいる。新人に対して冷たい（普通かな？）。

5). 人間関係。自分には関係なくとも、まわりで仲の悪い人同士がいると気を使わなければならない。

6). 社会人と同様に責任があること。

7). 長く働いている人がほとんどいないので、様々な仕事をすぐに覚えなくてはならないこと。入ってまだ 5 ヶ月にもかかわらず、上の方の仕事を任されたりすることもある。

8). 大型ショッピングモールに入っているので、他店との関わりを多少気にすること。

9). バイト先が家から遠いこと。

10).交通費をもらえないこと。

11).シフト組みをバイトリーダーが行うので、希望を言いにくかったり、急に休みたいときに自分で代わりを見つけなければならないこと。店長がいない分、責任がバイトにかかってくる気がする。

12).契約を取得するためにプレッシャーが

かかること。
13).セクハラがすごい。見ていて嫌になる。
14).立ち読みがいると迷惑。
15).車の駐車場が遠いこと。店が中心部なので知り合いが来たりすること。
16).最近変わった部門のチーフとうまくいっていない。「あまり気にしないで「はい、はい」と聞いていればいいの」と他のパートさんからは言われているのですが。
17).自分の中ではアルバイトと思っているのに、周りでは本業と考えている点。
18).同世代の人がいない。職場が地下にあり太陽の光があたらない。
19).働きやすさはとくになく、逆に仕事が忙しくて微妙です。また、人間関係に嫌な部分がある。
20).オーナーが口だけで実際、何も役に立たない。
21).労働環境が悪い（禁煙でない、クーラー・暖房が入れっぱなしで極端な室温で体調の悪化につながることがある）。衛生管理が行き届いていない。
22).大学生が 1 人しかいないために、1 人だけ勤務時間が長い。また、休みの日に急に連絡が入り出勤することも少なくない。
23).働く日数と職種は多いが、メインの時給や労働条件が良くない。働いている割に収入が少な過ぎる。
24).交通費が支給されないので定期券を買わなければならないこと。

【資料③】アルバイトで学んだこと、得た成果

1). 人見知りだったのが少し直った。
2). 最近リニューアルしたのですが、それにともないホールのリーダーというポジションに置かれ、時給も 10 円アップしました。それは私の仕事の評価にもつながっていると思うし、責任も重くなり、仕事に対する責任感が人一倍になったと思う。
3). 新人がミスをしたり働いている子たちが何か問題を発生させたとき、全ての責任をとるのは自分なのですが、その責任の重さを任されることで、①も③も同時に得ることができると思う。
4). 人には色々な事情があるということを知った。フリーターの方はフリーターをあまり望んでいない。
5). 特に居酒屋では、年上の方々が来店されるので、目上の人に対しての礼儀作法が身についた。
6). 接客用語を身につけ、お客様に対しての気配りに、より一層注意深く心がけられるようになった。
7). 社員と同じような業務をし、自分がミスをしたらその責任は自分にあるので、社会人になってもすぐに対応できると思います。
8). 社員は給料が 2 倍だけれども忙しさは 4 倍。
9). 飲食店には絶対に就職したくない。
10).深夜は社員が不在のため全ての責任を負わなければならないので、責任感がついた。
11).月給何十万ももらう父親は偉大だと思った。世の中では色々な職種の人が、色々な仕事をしているのだと知った。また（仕事ごとの－調査者）給与水準

を知ることができた。
12).話し方の勉強になった。
13).接客講習会等を会社で聞き、とても勉強になった。
14).店で一番古いこともあり、社員に仕事を教えたりすることもあったので、責任というものを考えるようになった。店では汗水流した分が給料になると思って働いていた。
15).会社で長く働いていると色々な失敗や成功を経験できる点。例えば、クレームから、具体的にどのような接客を目指せばよいか分かる。
16).飲食店で働いていた時の友人。公印の押し方など。
17).まず①については、楽をしてお金を得るのは決して容易ではないというべきか、間違っていると思った。やはり収入は楽をして得られるものではないと分かった。また、自分の担当しているところについて、ここをどうするか考えたり商品の発注の責任も持つようになった。
18).やはり、お金をもらうためには努力をしてコツコツと貯めないといけないということが、働き始めて分かった。
19).①については、「これだけ働いても 10 万円か」と嘆くこともありました。
20).敬語・常識・ルールなどについて、研修などを通して学んだ。
21).正社員と話しをすることで仕事の大変さがよく理解できた。
22).先輩や社員、社長や部長などとの関係づくりの大切さ。お客様との関係づくりの楽しさ。一緒に働く仲間の大切さ。
23).やはり仕事は自分 1 人ではできないので、目上の方に対するマナーや礼儀が身についた。

【資料④】バイトで経験したトラブルや不満

1). 学生だからという理由でシフトをカットされること（フリーター優先）。
2). 交通費については契約時に支払われないと言われたのである程度は納得しているが、責任者ということもあり、業務以外のことを任されて、時間内に終わらせようとしても終わらないときは仕事が終わってから（深夜 2 時閉店）2 時間とかただ働きをしなくてはいけないことがある。プラス、事情があってあまり働くことができなかったある月に、毎月 4000 円もらえる責任者手当てがでませんでした。理由をなぜか尋ねたら、その月は労働時間が 59.5 時間で、「60 時間以上働いたひとにしか払えないんだよ」と言われました。責任者として働いているのに、しかもそのことについては、聞いたこともなかったし契約書に書いてもいなかった。訴えたら「じゃあ今回だけ」と言われたが、そういう問題じゃないと思った。
3). 引越し業で、仕事上の説明なしにいきなり現場へ出される。物を壊したら全額を弁償させられた（5000 円）。
4). 夜間手当てがでない。主任のミスで発生した現金売上げの不一致の処理等、色々。
5). あらかじめ事前に連絡をしていただけるならまだしも、前日や当日（しかも 1 時間前）にいきなり突然バイトに来

るよう連絡をされても困る。

6). 大学一年生の頃に働いていたマックでは、勤務は 22 時までだったが、仕事が終わるまで帰れなくて、22 時半までかかることはよくあることだった。

7). 新人なのに最も忙しいシフトばかりに入れられ、「早くしろ！」と怒鳴られた（自分は未経験であること、じっくり覚えるタイプであることは面接で伝えた）。

8). マネージャーが頭が悪く、自分の気分で怒る。学生という理由で交通費を支払わない。

9). 社員なら正当だが、バイトには厳しいノルマが課せられること。

10). 深夜時間に、基準の金額以上の売上がでなかった時、実際には 2 人で働いていたのに、1 人ずつ休憩をしていたことにしろと言われ、実際の労働時間よりも短く報告させられた。

11). 飲食店では朝から勤務時間が少ないこともあったが、終わるまで食事がない。

12). 自分は朝 7 時までの勤務なのですが、残業するときがあり、そのときの時給は 7 時以降になると下がってしまうこと。

13). 週 4 日と求人情報には書いてあったが、実際の店での説明時点でもうすでに週 5 日にされていた。それで良かったのでまあ良しとするが。

14). ヤクザにタバコを投げつけられました。自分の口のききかたが気に入らなかったらしいです。

15). 勤務シフトは安定していない。特に飲食を取り扱っているので。

16). 新しい仕事を教えてもらえないこと。

17). バイトに入れない日に「×」をつける仕組みでそうしたのに、無効にされてしまった。

18). 忙しい時には仕事ができるひとは休憩がほとんどカットされてしまうときが多々ありました。

19). テレアポの仕事をしていたとき、入社後に決定した内部規定で、ノルマを達成しなければ給料 25%カットとされ、厳しかった。

20). 客が異常なほどに”男性（従業員－調査者）”にこだわる。重いものをもつためにケンショウエンになってしまった。

21). 給料が安いのだからせめて交通費は支給して欲しい。夜 22 時以降も時給にプラスがない。シフトを無理に入れられる。無言でサービス残業の押し付け。上司のセクハラ。

22). テレアポで、客をとれないとクリスマス休暇無しなど。

23). 軽いケガ・やけど。

資料II　バイト経験や、家族・友人の労働現場のあれこれ（「課題用紙」記載）

1). マックの店長のように、アルバイト先であるラーメン屋での店長の働き方は過酷だった。店を閉店した後もスープの火入れ、仕込み、チェーン店へのスープ運びも担当し、「体はきつい」と言っていた。

2). 家族に公務員がいるが、タイムカードはなく、予算の枠内で残業の処理がされるので、サービス残業。アルバイト先では、営業社員たちの残業代がつかないのは「当たり前」の状況。

3). 知人のドライバーの話しを聞くと、一日 13 時間労働、月収は約 20 万円で、休日は週に一日。有休はとれないとのこと。

4). マネージャークラスからは残業代が支給されない。代わりに「手当て」が支給されるが、多い金額ではないため、マネージャーになって逆に給料が減ったそうだ。

5). 仕事が終わらなければ残業は当然で、「仕事が遅いから」と言われていた。でも、実際は、人件費削減で人員を減らしていたのでその分の仕事が上乗せされていたのであり、仕事の遅れの発生は当然の状況だった。そういうのが嫌になりバイトを辞めた。

6). 自分で聞き取り調査をしてみたところ、9 割が「サービス残業はある」と回答。「自分だけ帰ったら会社での肩身が狭くなる」と言っていました。中には 50 連勤というケースもありました。

7). 高校時代の経験だが、バイト先に出勤しようとしたところ、「社員が一人入ったから今日から来なくていいよ」と店長からの電話が入り、素直に「ハイ」と言って、新しいバイトを探したという経験がある。あのとき、今日の授業で習ったようなことを知っていれば。

8). 現在話題になっているファストフード店で働いていました。サービス残業はアルバイトでもありました。また、「時間帯責任者」だったけれども、時給は 700 円でした。

9). 自分も以前のバイト先でサービス残業をしていた。言ったところでもらえるとは思えなかったし、言ったことで会社ともめるのは避けたいという気持ちもあったと思う。

10). 以前のバイト先では、普通に 11 時間シフトや 12 時間シフトがあった。自分は 1 ヶ月のうち 20 日以上は出勤していて、1 年半働きましたが、有休はなく、「アルバイトは有休はないものだ」と思い込んでいました。

11). 私のバイト先では、社員や店長はいなくて、アルバイトだけであるが、店の利益などを考慮してサービス残業をするのは当たり前だった。全員が店のことを第一に考えているからだと思う。授業の主旨には反してしまうかもしれないが、アルバイトに法律の整備というのは、少し疑問を感じた。

12). バイト先で、出社時刻ギリギリだったので、先にタイムカードを押してから着替えに行くと、着替えてからタイムカードを押すよう、社員のひとに怒られた。

13).2 年ほど働いてみて、これは不払残業ではないかと感じることはある。だが、聞くところによれば、これまでにも、有休を認めなかったり、欠勤 1 回で 8 万円のカット、1 分の遅刻で 1 万円のカットなど色々な問題があり、労働組合を結成して、労働条件を改善してきたそうだ。法律をきちんと勉強する必要があると思った。

14).以前に働いていた居酒屋で、17 時から 23 時まで働いているのに、深夜手当てはついていなかった。ホール主任に相談したが、「全て部長が決めていて、私は逆らえない。申し訳ない」と言われた。もっと上の管理職に伝えてはどうかとも言ったが、社長自身が、そういう判断をしていると聞かされた。このホール主任が辞めたときには、彼の仕事を全て押し付けられましたが、時給は何も変わりませんでした。

15).私のバイト先でも、社員はみな朝早くから来て 20 時過ぎまで残っている。会社側もなるべく人件費を削減しようということなのだろうが、社員の負担を大きいと思う。

16).バイト先の社員の働き方は、休日は月に 2 日、7 時に出社し、昼休憩が 1 時間、退社は 19 時半。さらにマネージャーともなると、退社は、閉店して 1 時間後位の 22 時前後である。まだ過労死の事例は聞かないが。

17).私のバイト先でも、「バイトは帰っていいけれども、社員はだめ！残業 1 時間！！」と言って店長はみんなのタイムカードを押していた。バイトなら追加で賃金が発生するが、社員は 1 日中使うことができるということなのだろうか。社員は奴隷のようだなって思った。